

竹田地区街なみ環境整備事業

～歴史的風致を活かした景観まちづくり～

大分県竹田市



内 容

1.竹田市の概況

2.城下町再生の体制づくり

3.城下町再生へのシナリオ

1. 竹田市の概況（城下町の特徴）

【竹田市の概要】

（竹田市の規模）

- ・ 人口は、大分県下の18市町村中で13番目、豊後高田市（昭和の町）とほぼ同じ。世帯数は県下14番目。
- ・ 人口密度は、47.74人/km²で県下で2番目に低い。

（竹田市の地勢）

- ・ 大分県の西南部、熊本県との県境に位置。
- ・ 大分市に車で約1時間、JRでは特急で約1時間。
- ・ JRは特急が4本/日、普通は概ね1本/時。
- ・ くじゅう連山、阿蘇外輪山、祖母山麓に囲まれた地。
- ・ 大分市に流れる大野川の源流。1日数万トンの湧出量

人 口	24,423 人（平成22年国勢調査）
世帯数	9,588世帯（平成22年国勢調査）
総面積	477.7平方キロメートル



【城下町（中心市街地）の特性】

城下町に近接する国指定史跡『岡城跡』

- 日本のマチュピチュとして最近有名になった兵庫県朝来市の竹田城跡ですが、こちらは竹田市の岡城跡。非常によく似た造りで、海拔325mの高台にあり、広さは実面積で100Ha（東京ドーム22個分）。
- 大野川の支流、稲葉川と白滝川が合流する舌状台地上に築かれ、川岸からそそり立ち、「難攻不落」と言われた天然の要塞として知られ、瀧廉太郎の名曲「荒城の月」を生んだ名城としても知られている。
- 岡城主志賀親次によって造られた切支丹遺跡の数々
- 記念館やトンネルなど瀧廉太郎に纏わる施設
- 中心市街地まで約1km、駅から徒歩で約20分。 • 観光客は年間6万8千人（平成25年実績）。

岡城古写真（明治初期）



史跡岡城跡大手口



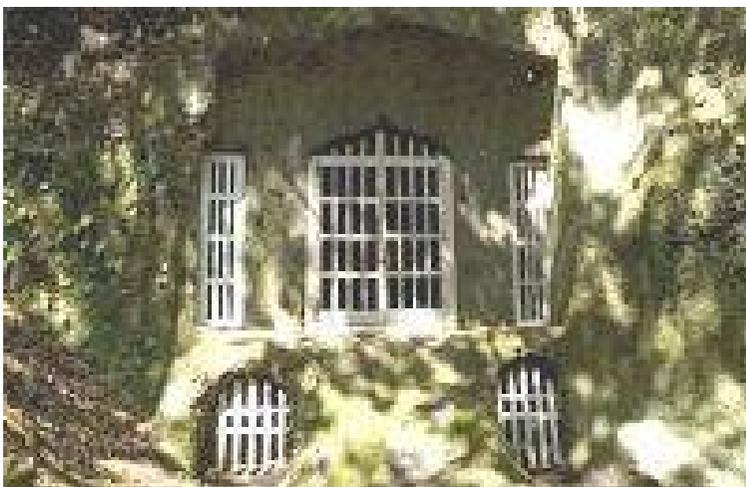
【城下町（中心市街地）の特性】

城下町に残る貴重な文化資源

- ・ 駅前にある竹田温泉『花水月』観光客は10万2千人
- ・ 岡藩時代の面影を残す武家屋敷通り



- ・ 岡城主志賀親次によって造られた切支丹遺跡の数々
- ・ 記念館やトンネルなど瀧廉太郎に纏わる施設



【城下町（中心市街地）の特性】

情感ある城下町の街なみと町割り

- ・ 中心市街地の大半を占める城下町には、歴史的な建造物が多く残り、昔ながらの町家と町割りが竹田城下町の風情を醸し出している。
- ・ 歴史的建造物等については、協定を締結した上で、「竹田地区街並み形成景観・修景ガイドライン」に沿って行う場合に限り経費の一部を補助しており、修景整備を行った建物が徐々に増えている。
- ・ 「下本町の街なみ景観を楽しむフェスタ」を開催し、修景整備の終わった通りの景観を楽しむイベントを実施。



2. 城下町再生の体制づくり

【城下町再生のきっかけ】

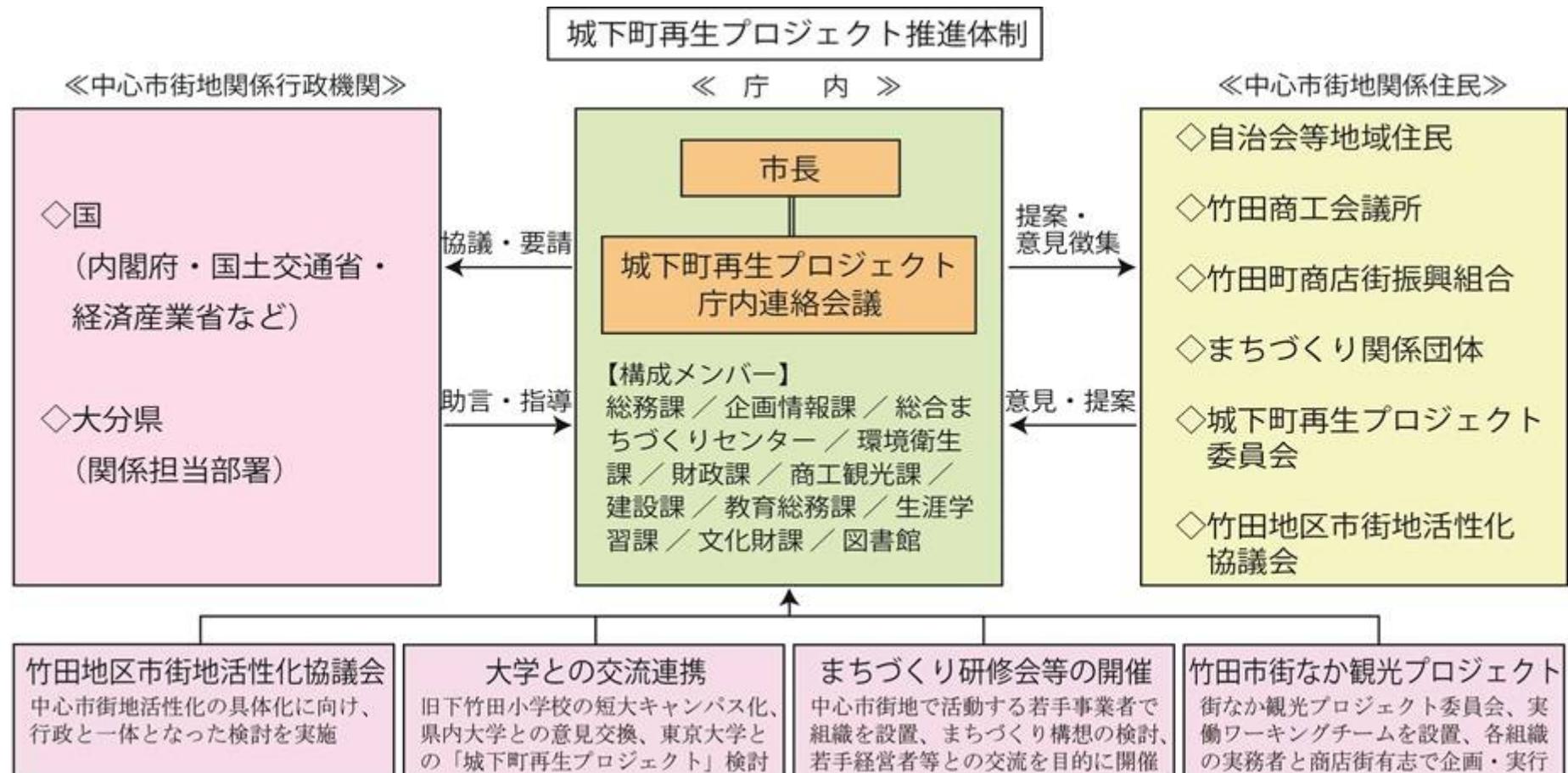
城下町再生の経緯

年度	計画等の策定状況	城下町再生に向けた動き
平成20年度	9月竹田市議会定例会で「中心市街地活性化基本計画」策定への取り組みが採択 12月竹田商工会議所を中心とした「竹田地区市街地活性化協議会」設立	商工会議所を中心として城下町の衰退に対する危機感が高まる 竹田地区市街地活性化協議会と城下町再生に向けた協議
平成21年度	町割り保全と建物修景事業の推進のため、城下町に指定された都市計画道路の見直しを検討	歴史・文化を積み重ねてきた「城下町の町割り」を残したまちづくりに転換
平成22年度	竹田市新生ビジョン策定（農村回帰宣言、農村商社わかばの設立、エコミュージアム構想の実践、竹田総合学院（TSG）構想など市ならではの様々な政策を位置づけ）	市が陳情型から政策提案型行政への転換を宣言 城下町再生プロジェクトの位置づけ及び取組開始 「記録に残る町から 記憶に残る町へ」 東京大学大学院景観研究室と連携で調査研究実施
平成23年度	竹田市都市計画マスタープラン策定ワークショップ等実施 竹田地区市街地活性化協議会から「竹田市中心市街地活性化構想」が市に提案	都市計画マスタープランの策定を通じて、市民との対話によるまちづくり検討を実施 竹田地区市街地活性化協議会の考えをまとめた活性化構想を作成
平成24年度	竹田市都市計画マスタープラン策定	城下町再生の必要性、都市機能集積の推進、都市計画道路の見直しなどを明記
平成25年度	4月大分県に都市計画道路変更案申請 10月大分県都市計画審議会承認 10月城下町での交通社会実験の実施	城下町内の都市計画道路の廃止を申請 交通社会実験による実証実験
平成26年度	6月竹田市歴史的風致維持向上計画の認定 1月「竹田市中心市街地活性化協議会」設立 3月竹田市都市再生まちづくり基本計画策定 3月竹田地区都市再生整備計画認可	竹田市の歴史的風致の維持向上を図るための計画として『歴史的風致維持向上計画』を策定 市では10年後の在るべき城下町の姿を描き、方向付けする『都市再生まちづくり基本計画』、これらを具現化する実践計画となる『竹田地区都市再生整備計画』を策定
平成27年度	6月竹田市中心市街地活性化基本計画の認定	『都市再生まちづくり基本計画』の商業関連施策を実施する『中心市街地活性化基本計画』が認定

【城下町再生を果たすための体制づくり】

城下町再生プロジェクトの検討体制

城下町再生プロジェクトの検討のため、市内連絡会議や委員会を新設。関係団体・住民の幅広い意見収集を行うため、総合的かつ一体的な推進体制を構築。



【城下町再生のきっかけ】

城下町再生への機運の高まり

・これまでも城下町の再生に向けた取組は行われてきたが、近年になって急速に**活性化への動きが活発になった切っ掛けは都市計画道路の廃止である**。単純に都市計画道路が廃止されたことで建物の建て替えができるようになったという理由ではなく、**城下町の再生に重要となる「町割り・歴史的建造物の保全」の考え方が都市計画を変えたという市民の達成感も後押ししている**。

・竹田市新生ビジョンの策定によって城下町再生プロジェクトが始動する中、都市計画道路の見直しや都市計画マスタープランにおける**城下町住民との対話でお互いの考えへの理解を深め、協力関係が醸成された**。

・その後、**竹田地区街なみ環境整備、竹田地区都市再生整備計画、歴史風致維持向上計画や中心市街地活性化基本計画の認定を経て、城下町再生への機運が高まっている**。

○街なみ環境整備事業(H14～H26)

整備目的

歴史ある「城下町」として伝統と歴史を重んずる中で住環境を高める。
また、地域住民が誇りを持って暮らせる場づくりを進め、点在している
歴史的建造物等を面的に広げることにより「歩いて楽しい町」を目指す。

事業への取り組み

- ・歴史的街並み景観形成等補助金交付要綱制定(H9)
- ・計画策定委員会及び協議会活動(H10～H12)
- ・街なみ環境整備方針の承認(H13)
- ・竹田地区街なみ環境整備事業計画の策定(H14.3)
- ・街なみ環境整備事業実施(H14～H31)

○街なみ環境整備事業(H14~H31)

水路・道路

・市街地に張り巡らされた流水路を活かした整備



殿町武家屋敷通り(H14~H15整備)



武家屋敷通りを活かした竹灯籠(竹楽)

・流水路の設置や水の流れるを感じる側溝整備

・土色カラー舗装による歴史的街なみとの調和を図った道路美装化整備

○街なみ環境整備事業(H14~H31)

街なみ整備助成事業

・住宅等の修景整備や敷地内の門扉や看板等の
の工作物の修景整備等への補助



・歴史的街並み景観形成等補助
金交付要綱や竹田地区街並み
形成景観・修景ガイドラインにより、
街づくり協定地区を対象に歴史的
景観づくりを行っている。

補助率(概要)

- ・街づくり協定地区(2/3補助)
- ・重点地区(5/6補助)

○都市計画道路廃止及び交通社会実験(H25)

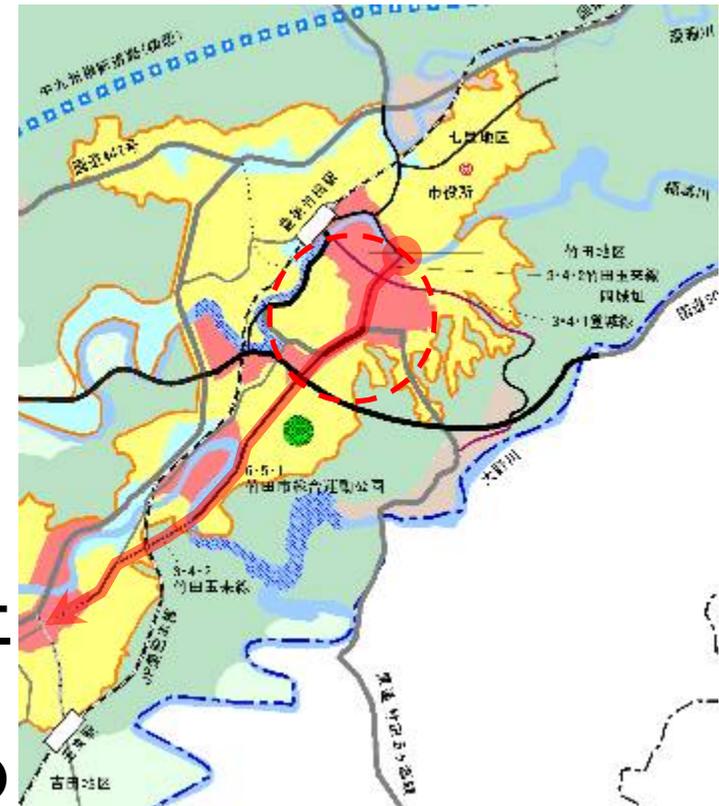
都市計画道路竹田玉来線(本町工区)

- ・S25 都市計画決定(W=12m)
- ・S62 都市計画変更(W=16m)
- ・H15～H19 街路検討委員会(住民・行政)
- ・H20 市街地活性化協議会設立

過去、何十年も都市計画道路を整備するかしないか市を二分するほど議論が行われていた。都市計画道路の拡幅反対の署名があったり、道路整備が地域活性化に繋がるのではといった議論である。

平成20年に道路のみでなく城下町全体のまちづくりを考えるとということで、

竹田地区市街地活性化協議会が発足した。



○都市計画道路廃止及び交通社会実験(H25)

都市計画道路竹田玉来線(本町工区)

- ・H21 拡幅見直し提案(竹田市)
- ・H23 区域MP見直し(見直し路線)
- ・H23～H24 ワークショップ等実施
- ・H25 市MP作成(廃止路線)
- ・H25.4 大分県へ変更案の申し出
- ・H25.10 大分県都市計画審議会承認
- ・H25.10 交通社会実験開始

平成21年に、歴史文化がある城下町は、「城下町の町割り」を残したまちづくりを行わないかという提案を竹田市が行い、市民にも受け入れられた。その後、城下町再生を目指したまちづくりを構想し、実践している。



竹田城下町絵図

○都市計画道路廃止及び交通社会実験(H25)

目的 実験から見えてくる課題や問題点を整理・検証し、
将来の道路整備に反映させる。

1車線化による
路側帯の幅員
確保

地域社会に
与える影響を
整理・検証

将来の
道路整備
に反映

本格整備に向けた
事業推進(市民との
合意形成)

整備
着手

“城下町の町割りを壊さずに歩道空間を確保する試み”

○都市計画道路廃止及び交通社会実験(H25)

〔実験前〕



〔実験後：現在〕



〔実験前〕



〔実験後：現在〕



○竹田市歴史的風致維持向上計画認定(H26.6.23)

竹田市は九州のほぼ中央、大分県では南西部に位置し、北にくじゅう連山、西に阿蘇外輪山、南に祖母山系の山々に囲まれ、これらの山々を源とする豊富な湧水や温泉に恵まれた自然豊かな市です。岡藩の城下町である竹田地域は、奥豊後の政治・経済・文化の中心地として栄え、江戸時代から変わらない町割りりと、史跡岡城跡や旧竹田荘をはじめとする数多くの歴史的建造物が残され、城下町を舞台とした夏越祭や田能村竹田の顕彰活動が行われています。竹田市北部地域は、くじゅう連山の麓に広がる高原地域の草原と、宮処野神社神保会行事などの地域固有の伝統的な祭礼が残されています。祖母山系の急峻な地形を呈する竹田市南部地域は、谷部に広がる水田に水を供給するため、音無井路をはじめとする農業用水路が開削され、地域住民により水路の清掃などの維持管理や水路掘削に感謝する水恩祭が行われています。このように、豊かな自然と歴史的建造物が、地域固有の伝統的な祭礼や活動と一体となり、良好な歴史的風致を形成しています。

①城下町の夏越祭にみる歴史的風致

城原八幡社の神輿が城下町へ御神幸し城下町の3社を廻る夏越祭は、氏子である城下町の町家の人々により、江戸時代から継承されています。城下町と農村部の人々の繋がりが感じられる竹田の夏の情景です。



夏越祭の御神幸の様子

②西宮神社の八朔祭にみる歴史的風致

西宮神社の鎮座する本町地区の氏子により行われる八朔祭は、塩屋土蔵や旧竹屋書店などの歴史的建造物が残される通りの店先に日用品で造られた見立て細工が飾られる。城下町の風物詩となっています。



八朔祭の御神幸の様子

③岡神社の善神王様祭にみる歴史的風致

佐藤家住宅などの歴史的建造物が周囲にある、岡神社周辺で開催される善神王様祭は、祭りを賑わす神楽の調子と小松明の幽玄な灯りが城下町を幻想的に彩ります。



善神王様祭の小松明の様子

④神明社の大祭にみる歴史的風致

5月に行われる古町地区の神明社の大祭は、神事や神楽の奉納が行われます。参拝者に寿司が振舞われることから「すし祭」とも呼ばれ、城下町の入り口として繁栄してきた古町地区の固有の歴史的風致を見ることができます。



神明社の大祭の様子

⑤城下町の町割りりと恵比寿講にみる歴史的風致

早春に行われる恵比寿講は、歴史的建造物が数多く残される城下町で行われます。華やかさはないが昔ながらの町家と溶け込んだ城下町住民の繁栄を支えてきた町家の人々の住民活動の礎となる行事です。



恵比寿講での町廻りの様子

⑥旧竹田荘と豊後南面の祖田能村竹田の顕彰活動にみる歴史的風致

豊後南面の祖田能村竹田を顕彰する茶会や美術祭など竹田の残した偉業に触れることで、旧竹田荘をはじめ城下町全体が、主客一体となった風流な雰囲気になります。



竹田祭での献茶会の様子



⑧久住神社の久住夏越祭にみる歴史的風致

8月に久住神社とその周辺地域で行われる久住夏越祭では、神輿の神幸や曳山車の「ヤーマヤレ、元気出せ」の掛け声と山車囃子の音色が、高原の町久住に夏の訪れをつける風物詩となっています。



久住夏越祭の曳山車行事

⑨宮処野神社の神保会行事にみる歴史的風致

10月に宮処野神社とその周辺地域で開催される宮処野神社神保会行事では、獅子舞や白熊が先導する華やかな御神幸行列が整然とした姿で田園風景が広がる都野地区を進んで行きます。



神保会行事の神幸行列

⑩長湯温泉の温泉供養にみる歴史的風致

情緒豊かな温泉郷である長湯温泉の湯原業師堂の二尊を供養し、長湯の発展と温泉に感謝する温泉供養は、法要や神輿の御神幸が行われ、湯治場長湯を象徴する歴史的風致です。



湯原業師堂の業師如来と地藏菩薩

⑪農業水利施設の維持にみる歴史的風致

竹田市南部地域では、農業用水を確保するため音無井路などの農業水利施設が造られ、水田耕作が行われています。井路の管理や井路開削に感謝する水恩祭が住民により行われています。



音無井路12号分水

3. 城下町再生へのシナリオ

○竹田市都市再生まちづくり基本計画(H26～H35)

○基本理念

城下町の風情が五感に響く“竹田情感まちづくり”

○基本方針

方針1：城下町の風情を活かした観光拠点づくり

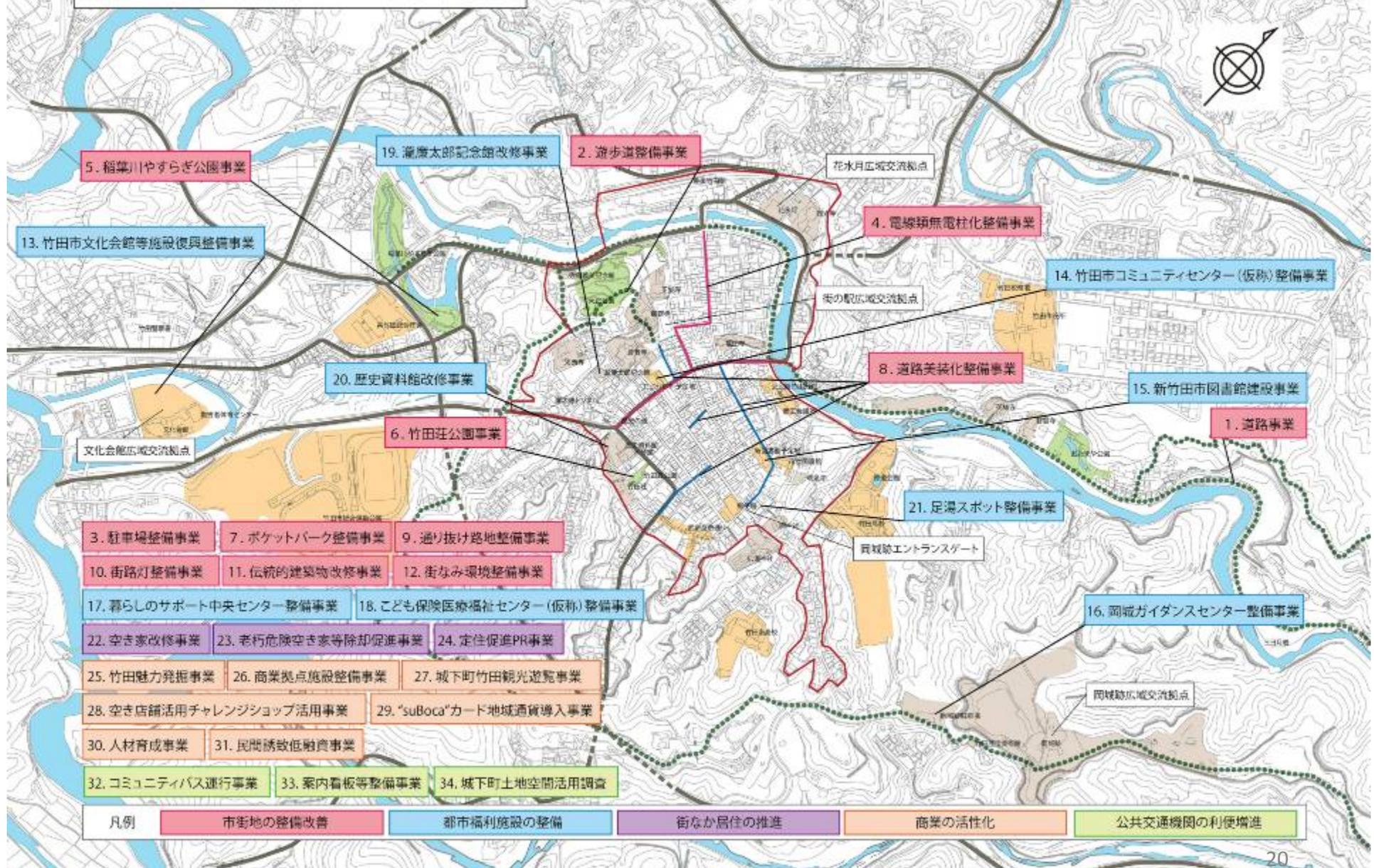
方針2：市民が日常的に利用できる中心市街地づくり

方針3：歩いて楽しいにぎわい商業地づくり

方針4：安心して快適に生活できる居住地づくり

○竹田市都市再生まちづくり基本計画(H26～H35)

竹田市都市再生まちづくり基本計画 事業位置図



【竹田地区都市再生整備計画】

目 標

大目標：歴史的風致と街なみ景観の保全・活用による「魅力あふれる城下町再生まちづくり」を行う。

目標 1：恵まれた自然環境と利便性に優れた住環境の提供による「暮らしいきいき永住都市の形成」

目標 2：歴史と文化に育まれた城下町の風情を活かし、「にぎわいと情緒を創出する観光交流都市の形成」

指 標

竹田地区の定住促進と観光交流、城下町（中心市街地）の利用機会向上の観点から下記を目標指標として設定した。

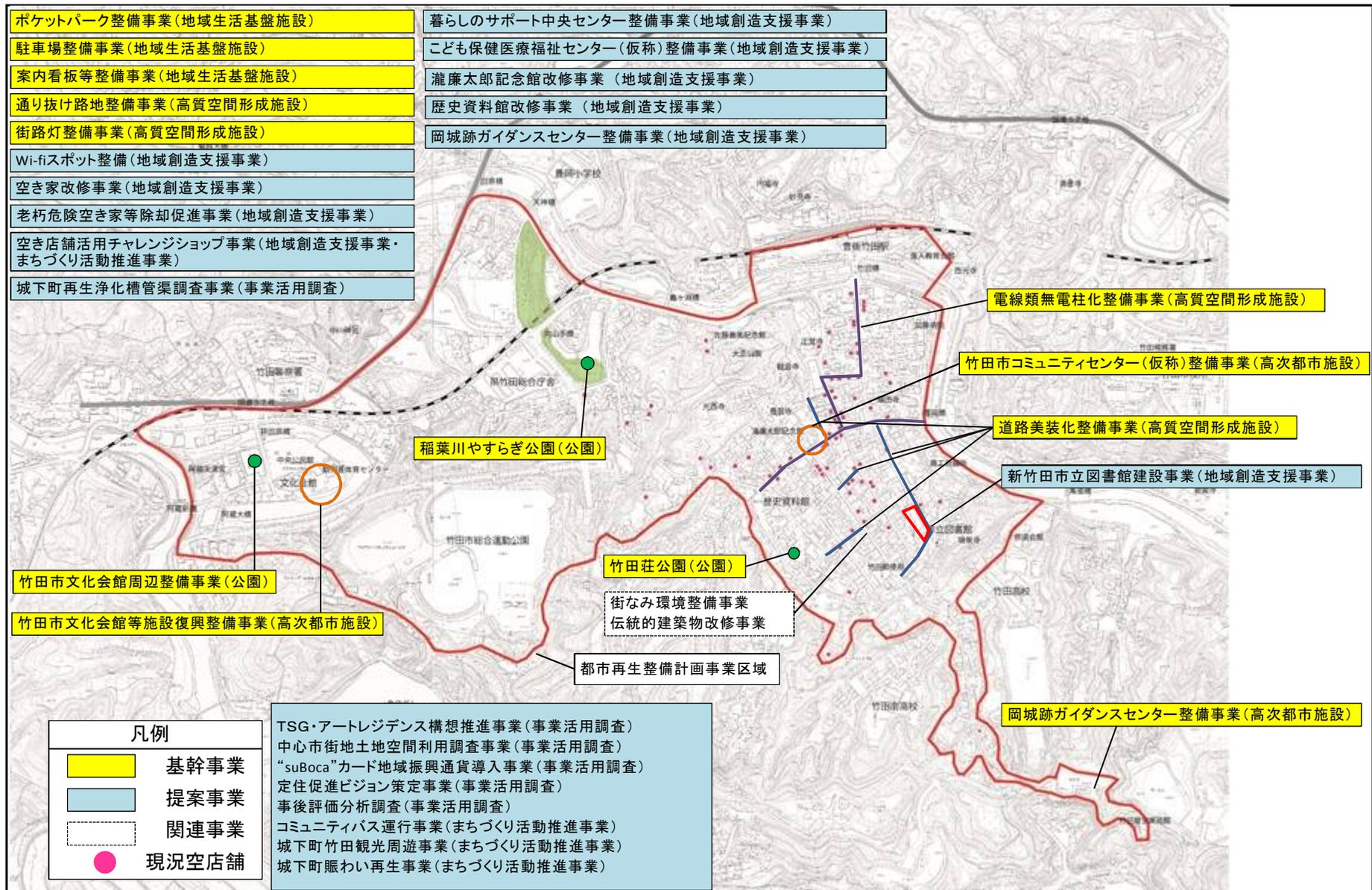
交付対象事業費 5,850百万円 交付限度額 2,632.5百万円 交付率 45%

基幹事業 4,750.5百万円 提案事業 1,099.5百万円

城下町内居住人口の増加	1,284 人	(H25)	→	1,300 人	(H30)
中心市街地の利用機会の向上	5.0 %	(H25)	→	10.0 %	(H30)
地区観光客数	204,000 人	(H25)	→	222,000 人	(H30)

竹田地区（大分県竹田市） 整備方針図

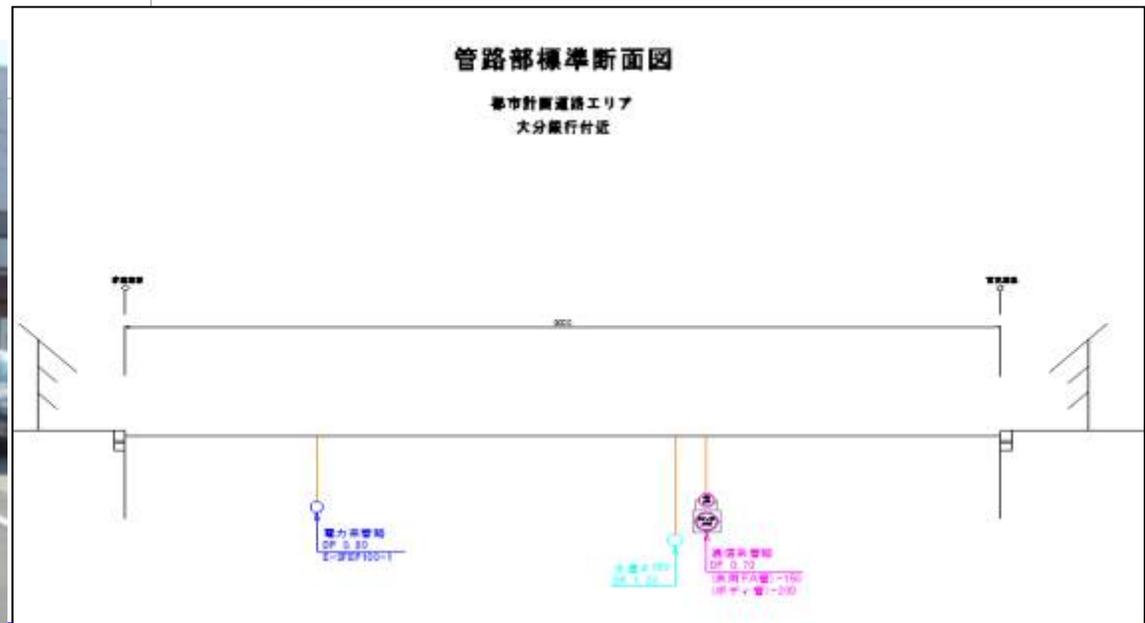
目標	大目標: 歴史的風致と街なみ景観の保全・活用による「魅力あふれる城下町再生まちづくり」	代表的な指標	城下町内の居住人口	1,284 (人) ⇒ 1,300 (人)
	目標1: 恵まれた自然環境と利便性に優れた住環境の提供による「暮しいきいき永住都市の形成」		中心市街地の利用機会の向上	5.0 (%) ⇒ 10.0 (%)
	目標2: 歴史と文化に育まれた城下町の風情を活かし、「にぎわいと情緒を創出する観光交流都市の形成」		地区観光客数	204,000 (人/年) ⇒ 222,000 (人/年)



【基幹事業：高質空間形成施設・無電柱化整備】

【事業概要】

- 電線類無電柱化整備事業
- 目的：歩行に支障をきたしている電線類等を無電柱化し、歩行空間と、景観形成を行い、歩いて楽しい道路を整備する。また、当該路線をメインストリートとして、再整備し、城下町の拠点のひとつである中心市街地の賑わいづくりに寄与する。
- 施工延長 L=800m（本町通線400m，駅前線400m）
- 内容：測量及び実施設計
 - 市道本町通線無電柱化工事
 - 市道駅前線無電柱化工事
- 実施時期：平成27年度～平成29年度
- 事業費算定：663.4百万円
 - （内訳）
 - 測量、実施設計 12.7百万円
 - 工事費 411.1百万円
 - 道路美装化（舗装等）・水路整備239.6百万円



【第10回まち交大賞まちづくりシナリオ受賞!!!】

・計画部門より、都市再生整備計画において、テーマの設定、まちづくりのアイデア、計画策定のプロセスの中で特徴があり、優秀な地区を表彰するもの。

ポイント

城下町を縦横断する都市計画道路の廃止を提案、城下町再生プロジェクトやまちづくり工房など、行政と住民との連携により城下町の町割を活かした城下町再生を具現化。

H27.5.28大分合同新聞朝刊掲載

風情生かした整備評価
竹田市が「まちづくりシナリオ賞」

国の社会資本整備交付金事業(旧まちづくり交付金)を活用し、優れた都市再生整備計画を策定した地区を表彰する「第10回まち交大賞」で、竹田市の「竹田地区都市再生整備計画」が計画地区部門の「まちづくりシナリオ賞」を受賞した。

歴史ある城下町の雰囲気を生かしたまちづくりが評価された。受賞は26日付。まち交大賞はまちづくり情報交流協議会などが主催(国土交通省後援)。司郭高日市の沼引町が最優秀

建物の外壁を城下町風に改修する修景事業が今年3月に完了した竹田市の下本町通り=27日

程などが審査された。竹田市は2009年度から「城下町再生プロジェクト」に着手。同整備計画(14年度から18年度)の重点地区に指定した下本町地区の「下本町通り」(約1300m)では、23棟の外壁を城下町風に改修する修景事業に取り組み、今年3月に完了した。今後は無電柱化やカラ舗装の整備を進める。

27日、受賞を受けて会見した首藤勝次市長は「受賞を励みに城下町の魅力を創出したい」と話した。下本町通り会(後藤真志代表)は6月7日午前10時から、修景事業の完了を祝うイベント「下本町の街なみ景観を楽しむフェスタ」を開く。県内では、12年度に豊後高日市の沼引町が最優秀

表彰状を受け取る首藤勝次竹田市長(右) 8日、東京・虎ノ門

H27.7.9大分合同新聞朝刊掲載

竹田の活動評価
まちづくりシナリオ賞の表彰式

【東京支社】優れた都市再生整備計画に取り組み地区を表彰する「第10回まち交大賞」で、「まちづくりシナリオ賞」に選ばれた竹田市の活動評価

賞状を受け取った首藤勝次市長は「城下町という個性を生かしたまちづくりを進め、移住・定住政策と連動させたい」と話した。

画や行政と住民が一体になった活動が評価されたという。

田市の表彰式が8日、東京・虎ノ門であった。同市は2009年度から「城下町再生プロジェクト」に着手している。審査委員長の高橋洋二・東京海洋大名誉教授によると、歴史的な町並みを生かした計画

【城下町再生の速報】

都市計画道路廃止区間（車道1車線化実施済）
※無電柱化計画路線

○歩行者数の増加！！

平成25年9月調査地点4 391人



平成27年9月調査地点4 781人

約2倍！



おわりに

【城下町再生の実現】

将来ビジョンの多面的な施策と歴史的風致を活かした景観まちづくりを推進し、城下町再生を実現します。

ご清聴ありがとうございました。

